

教材批判の視点を生かした「生命の尊さ」の探究

— 小学校道徳科における「ヒキガエルとロバ」の模擬授業の分析を通じて —

宮本浩紀*・小林伸彦**・宮田祐大***・田辺虎大***・辻中勝輝***

(2025年3月7日受理)

An Inquiry into Life Utilizing a Critical Perspective on Teaching Materials: Through the Analysis of a Simulated Lesson on 'Hikigaeru to Roba' in Elementary School Moral Education

Hiroki MIYAMOTO, Nobuhiko KOBAYASHI, .
Yudai MIYATA, Kota TANABE and Shoki TSUJINAKA

キーワード: 特別の教科 道徳, 教材批判, 小学校, 模擬授業, 生命の尊さ

本論文は、「特別の教科 道徳(論文内では「道徳科」とする)」の実施における授業づくり・授業実践の方針について、主に教材批判の観点から迫るものである。道徳科の授業で用いられる道徳読み物教材には、多種多様なテーマや内容や道徳的価値が含まれている。それらの中には、子どもにとって「身近なもの」や「事例が浮かびやすいもの」、「言葉を使って説明を行い易いもの」が含まれている一方、「その内実が十分わかっている(と子どもが思っているもの)」や「どのような内容を含んでいるのか想像することが難しいもの」など、その後の理解や思考に行き詰りを生じさせるものも含まれている。

本研究が取り上げるのは、それらを含めた道徳的価値、すなわち、「子どもがその価値を正しいもの／望ましいものと理解してはいるものの、そいうえのわけをうまく説明できないもの」である。その理解の支援を行うべく、本研究では、道徳読み物教材や道徳的価値を批判的に検討する視点をもつことの意義について取り上げる。

はじめに

小学校で実践される「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」とする)の教材には、様々な読み物教材が存在する。中でも、数十年以上にわたって多くの教師に用いられてきた読み物教材の一つに「ヒキガエルとロバ」があげられる。本教材は、少年たちが道端にいたヒキガエルをいじめている様子から始まり、そこへ偶然やってきたロバの行動がヒキガエルを救う場面を経て、最終的に少年の行動に変化が生じるというストーリーで展開する。いじわるをされる弱い存在(ヒキガエル)と、そ

*茨城大学全学教職センター

**茨城大学教育学部

***茨城大学大学院教育学研究科

れを防ぎ守ろうとする存在(ロバ)の行為が対比的に描かれ、最終的にそれを見た登場人物の中に、ひいては授業を受ける子どもの中に、「生き物の命を大切にす態度」や「自分の行動を振り返る意思」が浮かび上がるところに、道徳読み物教材としての特徴がある。

一方、この教材はその取り扱い方によって、子どもたちが得る学びの深さ・広さは大きく変わる。授業末尾の振り返りにおいて、単に「生き物は大切にしよう」で終わってしまうような記述が示された場合には、子どもの思考は表面的な理解にとどまっていると言わざるを得ないかもしれない。そのような場合、授業を受けようと受けまいと、当たり前正しいものと知っていたことの再確認がなされているだけで、子どもの中に驚きや振り返りの気持ちが芽生えていない恐れがあるのである。同課題を解消すべく、本論文では「教材批判の視点」を取り入れた研究を行うこととする。それによって、「ヒキガエルとロバ」から引き出される道徳的価値を検討し、子どもたちの考えをさらに深める手だてを探ることの必要性を見出したい。すなわち、登場人物の行動原理や物語の構造を問い直し、それらを授業者・受講者の立場から見直すことで、「生命」への向き合い方について考察したい。

本論文では、まず第1節で道徳科における教材研究の在り方について整理し、続く第2節では「ヒキガエルとロバ」を使った模擬授業の分析を行う。そこでは、教材批判の観点を組み込んだ授業づくりと、受講生(本稿では教職大学院の院生)の発言や思考の変容を中心に検討する。最後に「おわりに」において、本研究の意義や今後の課題について考察する。

1. 道徳科における教材研究の在り方

(1) 「考え、議論する道徳」の求める授業と教材研究

平成29年告示の学習指導要領解説では、道徳科の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に…道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」が強調されている¹⁾。この度文部科学省の掲げた「考え、議論する道徳」という方向性は、「道徳的諸価値の理解」が授業実践のベースに置かれているところが特徴的である。子どもが多面的・多角的に物事を考え、それぞれの価値観や立場を尊重し合いながら議論を重ねることで、自らの生き方の形成を図る。その実現のため、各人の思考の共通基盤として道徳的価値の理解の重要性が強調されたと言える。

しかし、そのような方針をもってしても、道徳科の授業実践は容易にできるわけではない。その要因の一つとして、その解消のためには、教師自身が教材を深く読み込み、教材のどの部分からどのような道徳的価値を引き出せるかについて十分に把握することが大切になる。すなわち、学習指導要領で示される「主として自分自身に関すること」「主として人とのかかわりに関すること」「主として集団や社会とのかかわりに関すること」「主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」という括りを意識しながら、本時で取り上げる内容項目と使用する教材を結びつけ、どのような学びが子どもから生まれるかについて考えることが重要になる。

(2) 教材批判の視点とは何か

道徳科で取り扱われる読み物教材は、多くの場合、登場人物（主人公）が望ましい行動をして終わるという構成で組み立てられていることが多い²⁾。

しかし、これらを一方的に“いい話”として提示し、子どもの感動を待つだけでは、子どもの主体的な思考や自らに対する振り返りを引き出すことは難しい。

本論文で取り上げる教材批判の視点とは、物語を批判的に捉えて、例えば、「どのような価値観が描かれているのか」「登場人物の行動にはどのような背景や葛藤があるのか」「本文に書かれている決断や発言や行動とは別の観点は存在しないのか」といったことを考え直すことを指している。

ただし、道徳科ひいては学校教育の場合、ともすると「批判」という言葉は否定的に捉えられる傾向がある³⁾。もちろん、ここでいう「批判」は“作品を否定する”ことを意味するわけではなく、むしろ、それは、作品のもつ文章の構造や隠された道徳的価値を引き出し、複数の視点を提示しながら、子どもたちが多面的・多角的に考えられるようにするための手がかりとみている。教材批判の視点が重視されることで、文部科学省が掲げる多様な見方や考え方を認め合い、学び合う態度の育成に効果を生むことが期待される。

(3) 「生命の尊さ」を深めるための教材選択

道徳科で扱う道徳的価値は様々な内容項目として表される。「生命の尊さ」は「主として生命や自然、崇高なものとかかわりに関すること」に位置づけられたものとして、生命倫理や自然との共生を考える上で重要なテーマである。「生命の尊さ」を扱う教材としては、動物との関わりやいじめの問題を題材にした作品が多い。それらを学ぶことで、子ども／場合によっては、もしかしたら傷つけることを厭わずに接してしまったことのある小動物や生き物との関わりを感じ取り、自分の行動を見つめる機会となることが期待される。

本論文で取り上げる「ヒキガエルとロバ」において、「弱い存在が受ける暴力」と「それを守ろうとする行為」は対比的に描かれる。さらにヒキガエルと守る側のロバも人間の仕事を行う存在であることを踏まえると、いっそうアドルフたちの行いが際立つことになる。教材研究の視点やそれを生かした授業展開は多種多様に考えられるが、その構図を通じて、多面的・多角的に「生命の尊さ」について学ぶことが期待される。一方、悪いことを行う登場人物に対して「なぜそこまで残酷になれるのか」という問いを投げかけた場合、子どもは一旦は登場人物の行いを批判的に捉え、糾弾することがあるかもしれない。ただ、その視点を一たび自分自身に向けた時、「あれ、自分も同じことをしたことはなかったか」という思いに到る子どもも少なくないはずである。そのように、教材批判の視点を取り入れることで、最終的に、子どもが自分自身の振り返りにつながることが期待される。教材批判の視点は教師だけでなく子どもも持てるようになることが望ましいといえる。

2. 「ヒキガエルとロバ」を活用した模擬授業の分析

(1) 「ヒキガエルとロバ」を活用するときのポイント

①本教材のあらすじと活用の際の注意点

さて、本論文で取り上げた「ヒキガエルとロバ」は元々『わたしたちの道徳 三・四年⁴⁾』の「3

命を感じて」に取り上げられた教材である⁵⁾。そのあらすじは次の通りである。

「ヒキガエルとロバ」のあらすじ

雨が降りやんだあとのぬかるんだ道端で、アドルフとピエールたちは「気味が悪い」と思ったヒキガエルに小石を投げつけてからかっています。ヒキガエルは泥水がたまった車輪の跡へ転がりこみ、なんとか身を守ろうとします。そこへ、年を重ねて耳も目もほとんどきかないロバが、重い荷車を引きながら苦しそうに近づいてきました。そのままだとヒキガエルは車輪に踏まれてしまいそうでしたが、ロバはありったけの力を込めて進路を変え、ヒキガエルをかりあげて助け出します。

最初は、ロバがヒキガエルをひいてしまうのを面白がって見ていたアドルフでしたが、ロバの必死な行動を目の当たりにすると、手に握っていた石をそっと落とし、何も言えなくなりました。遠ざかっていくロバの姿と、くぼみにうずくまるヒキガエルをじっと見つめながら、アドルフたちは自分たちのしていた行為を振り返るのでした。

同教材について分析を行った先行研究として、ここでは、長谷徹（編著）『『わたしたちの道徳』完全活用ガイドブック』（明治図書、2015）及び横山利弘（監修）／牧崎幸夫・広岡義之・杉中康平（編）『楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる』（ミネルヴァ書房、2015）を取り上げる。

それらを比較して見えてくる「ヒキガエルとロバ」の教材研究及び授業実践のポイントとして、①ロバへの注目、②子どもたちと生き物との接点、以上二点があげられる。

まず①については、前者に、「この資料は、ロバの行動がアドルフたちの気持ちを変化させるきっかけとなる資料である」「ロバがどのような思いでそのような行動をしたのかを考えさせることが大切である」という記述が認められる⁶⁾。後者には、「中心発問前の発問は主人公とは離れるが、助言者のロバをおさえないと中心発問でロバと比較した答えが出ないので、発問しておく」という記述が認められる⁷⁾。いずれも、ロバに焦点を定めた教材研究が行われているところが特徴的である。

次に②については、双方において、授業の導入でヒキガエルの写真を見せるという手立てが講じられている。その効果として、子どもから「気持ち悪い」や「カエルは苦手」といった反応を引き出すことで、「ヒキガエルとロバ」に登場するアドルフたちの思いが自分たちも持っている／持ち得るものであることが確認されている。

以上のことから読み取れる本教材の活用のポイントは、「子どもと教材の重なりを見出すこと」あるいは「子どもと教材との距離感を縮めること」にある。教材研究の段階でそれを意識し、実際に授業展開に組み込むことが大切である。

②本教材で深めたい道徳的価値について

「生命の尊さ」は、次の三つの視点で深めることができる。

第一に、「かけがえのない生命への気づきと敬意」があげられる。「生命を大切にし尊重する」という態度は、自分自身も含めて他者の生命が唯一無二のものであることを理解するところから始まる。これにより、自らが多くの生命によって生かされていることに対する感謝や謙虚さが養われる

ことが期待される。このうち、「ヒキガエルとロバ」の授業実践に関わる点は「生命が唯一無二のもの」であるということに見出される。模擬授業において、その点が活かされたかどうかを分析したい。

第二に、「多様な視点からの生命理解」があげられる。これは、具体的には、「家族や社会との関わりの中での生命」や「自然の中にある生命」や「生死や生き方に関わる生命の尊厳」といった多様な視点から考察することができる。このうち、「ヒキガエルとロバ」の授業実践に関わる点は、二つ目である。本教材の学習とは直接結びつかないかもしれないが、最終的には、動植物や自然環境との相互依存関係に目を向けることで、人間の生命も自然の一部であることを学ぶことが期待される。そのような機会を通じて、自然や環境を大切にする気持ちが高まり、環境保護意識や持続可能な社会を考える土台となることも考えられる⁸⁾。

第三に、「生きることの素晴らしさの実感と自己肯定感の醸成」があげられる、これは、具体的には、「生命の尊さと自己との結びつき」と「他者への思いやりや共感の育成」と位置づけられる。前者のように、「生命の尊さ」を単なる概念としてではなく、「自分自身が生きていることの素晴らしさ」と関連づけて実感する指導が求められる。それにより、自己の存在意義に気づき、自己肯定感や自尊心を高めることが期待される。後者のように、自他の生命に対して敬意をもつ態度は、日常生活における相手を思いやる行動やいじめの防止に結びつく。相手の尊厳を踏みにじらない「共に生きる姿勢」を育む上でも重要となる。

(2) 本授業のねらいと展開

①模擬授業の概要

本研究では、小学校四年生を想定して「ヒキガエルとロバ」を活用した模擬授業を実施した。模擬授業には、県教育委員会より派遣された現職教員2名と学部卒のストレートマスター7名が参加した。「ヒキガエルとロバ」を活用した本授業は、授業者としてストレートマスター3名、受講者として他の6名が参加した。さらに、本模擬授業をカリキュラムに組み込んだ講義を担当する大学教員2名も同席した(表1参照)。

表1 「ヒキガエルとロバ」を活用した模擬授業の概要

<p>■日時：2025年1月23日(木) 10:35～12:20 ※茨城大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻の講義科目「教育臨床問題と道徳」(教育方法開発コースと児童生徒支援コースの融合科目)</p> <p>■場所：茨城大学教育学部A棟 A224 模擬授業室</p> <p>■参加者：教育方法開発コース5名／児童生徒支援コース4名</p> <p>■使用教材：「ヒキガエルとロバ」(『わたしたちの道徳 三・四年』)</p> <p>■実施形態：学習指導案の説明5分／模擬授業時間25分／振り返り15分 ※通常、小学校において実施される45分の授業を25分に短縮</p>
--

表1の概要に基づき、本模擬授業では、授業の撮影、Microsoft Formsを活用した振り返りの実

施、それに基づく全体共有を実施した。本稿で行う模擬授業の分析はそれを元に、受講生及び講義担当教員の発言記録をもとに行った

②模擬授業実施に当たり作成された学習指導案

本模擬授業を実施するに当たり、以下のような学習指導案が作成された。

第 4 学年〇組 道徳学習指導案

日 時：令和6年1月23日（木）第2限

授業者：氏名【導入】 ○○ ○○

授業者：氏名【展開】 ○○ ○○

授業者：氏名【終末】 ○○ ○○

場 所： 第 _____ 学年〇組（小学校）

1 児童・生徒の実態・課題について（箇条書きでも構いません）

・クラスで飼っている金魚を飼育する人としていない人がいる

2 子どもたちに理解してもらいたい道徳的価値（内容項目） D - 19 生命の尊さ

3 教材について

(1) 教材名 「ヒキガエルとロバ」(一)

(2) 教材について（概要）

省略

(3) 子どもたちに最も注目してもらいたい教材の箇所（※箇条書きで記すこと）

- ・ロバとアドルフのヒキガエルに対する行動
- ・場面ごとのアドルフの心情
- ・アドルフの心情の変化

(4) 本授業のねらい（※「〇〇を通して、△△に気づき、□□を養う」を踏まえつつ、適宜修正して作成ください）

ロバとアドルフたちのヒキガエルに対する行動の違いを通して、アドルフの心情の変化に気づき、今後のアドルフの行動を考えていくことで、生命は尊いものであるという心情を養う。

4 評価の観点（※該当する観点に関して、どの段階に達成することが望ましいか記すこと）

省略

5 展開

過程	教師の説明・指示・発問	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ごきぶりの写真を提示し、どのような心情を抱いたか聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に出てくるアドルフと同じ経験ができるようにすることで、生命の大切さについての認識が深まるようにする。
展開	<p>2 『ヒキガエルとロバ』を読み、</p> <p>○アドルフはどのような行動を取っていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒキガエルをいじめる ・石を投げた ・カエルを退治している <p>○ロバはなぜ新しいわだちをつけていったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒキガエルを嫌かないため ・ヒキガエルを守りたい ・人間の言うことを聞きたくない ・新しい道を切り開いていきたい <p>◎ロバの行動を見たあと、アドルフたちはどのような行動を取っただろう。それはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カエルがかわいそうだと思って、石を投げるのをやめた ・ロバがヒキガエルを嫌かなくて、つまらないから石を投げるのをやめた ・ロバの行動をみて、自分よりも劣っている動物よりも思いやりがないことに気付いて、石を投げるのをやめた ・ロバの行動から、ヒキガエルの生命の大切さに気づき、石を投げるのをやめた 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドルフの行動の心情を考える時に導入時の自分達と比較させて自分事だと捉えられるようにする。 ・ロバの行動を通して、アドルフにどのような心情の変化があったのかを考えさせる。 ・アドルフの心情の変化を考えるときに、自分だったらどうしたかを考えさせ、自分と比較する。 ・アドルフが石を落とした時とロバに引かせようとした時の感情を比べて、どんな行動がアドルフに変化をもたらしたかを考えさせる。 ・これまでのアドルフの行動や心情の変化を通して、自分自身の行動も振り返り、生命の尊さを認識させた上で今後の行動を考えさせる。
終末	<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳のノートに振り返りを記載し、発表してもらう。 <p>教員の説話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命は尊いものであるが、我々の周りではたくさんの生命が誕生したり、途絶えたりしている。例えばこれから食べる給食などの食事では、我々が生きるために生命をいただいたり、金魚を飼うことなど我々の好奇心で生命を扱うこともある。だからこそ、いたずらに生命を奪うのではなく、日々生命という尊い存在が身の回りにはあふれていることを実感し、我々が生きているということそのものに感謝の気持ちを持って、これから生活して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のこれからの実生活に結び付くように、具体的な指示を出す。 EX) これまでの経験や出来事と結び付けて書いて見て下さい。 ・振り返りを踏まえ、学んだことを今後の生活に活かし、これからも考えを深めることができるように、語りかけるような形で説話を行う。

(3) アンケートの回答結果とその分析

①学習指導案の作成に関する振り返り

学習指導案作成後、「ヒキガエルとロバ」の教材研究を行った受講生より、Microsoft Teams を通じて以下のようなアンケート回答を得た。まず、その質問事項は以下の通りである（表2参照）。

表2 学習指導案作成に関するアンケート

<p>1. 今回扱った読み物教材の名前を書いてください *</p> <p>回答を入力してください</p>
<p>2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。*</p> <p>回答を入力してください</p>
<p>3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？</p> <p>答えの選択</p> <p>非常に難しかった</p> <p>少し難しかった</p> <p>それほど難しくなかった</p> <p>難しくなかった</p> <p>+ オプションを追加 *その他* オプションの追加</p>
<p>4. 質問1について、「非常に難しかった」「少し難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）</p> <p><input type="checkbox"/> 読み物教材の登場人物の立場や状況が子供が想像するのが難しそうに思えたから</p> <p><input type="checkbox"/> 読み物教材の登場人物の立場に立つのが授業者自身としても難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 読み物教材を通して伝えたいことを見定めるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 「学習指導要領解説」に記載された内容項目を授業に反映させるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 本教材と子供の知識・理解・経験との結びつきをつけるのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> 授業で子供が何と答えるか想像するのが難しかったから</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>

5. 質問1について、「それほど難しくなかった」「難しくなかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

- 読み物教材の登場人物の立場や状況を子供が想像するのは難しくないように思えたから
- 授業者自身として、読み物教材の登場人物の立場に立つことは難しくなかったから
- 読み物教材を通して伝えたいことを見定めるのが難しくなかったから
- 「学習指導要領解説」に記載された内容項目を授業に反映させるのが難しくなかったから
- 本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しくなかったから
- 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しくなかったから
- 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しくなかったから
- 本教材と子供の知識・理解・経験との結びつきをつけることが難しくなかったから
- 授業で子供が何と答えるか想像するのが難しくなかったから
- その他

6. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。*

回答を入力してください

「ヒキガエルとロバ」を使用した学習指導案を作成した受講生3名の回答は次の通りである（表3参照）。

表3 「ヒキガエルとロバ」の学習指導案作成に関するアンケート回答結果

【受講生A】
2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。
生命の尊さについて考えるいい機会になるよう、どのような工夫をすればよいか考えることができた。また工夫として、当事者意識をハッキリとさせることで、自分事のように生命の存在を感じてもらえるようにした。
3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？
少し難しかった
4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）
<input checked="" type="checkbox"/> 読み物教材の登場人物の立場に立つのが授業者自身としても難しかったから
<input checked="" type="checkbox"/> 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しかったから
<input checked="" type="checkbox"/> 本教材と子どもの知識・理解・経験との結びつきをつけることが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

道徳という特殊な教科という偏見があり、指導案を作る際に難しく毛嫌いしている部分があった。しかし、今回指導案をつくったことで、他の教科と同様に、抑えるべき点や児童生徒に伝えたい点など要所を抑えることで難しく考えすぎずに道徳について捉えられるようになった。

【受講生B】

2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。

生命の尊さで大切にされている、「唯一無二」という観点を伝えるのには扱いやすいと感じた。ヒキガエルという、小さな命だとしてもそれは尊重されるべき命であることについて理解しやすいのではないかと思った。その反面、ロバの行動を尊いものとして触れすぎてしまうと、価値項目がずれていく可能性もあると感じ、その点については教材の取扱い方が難しいと思った。また、アドルフの行動と似た体験を子どもたちが自身の経験の中から瞬時に思い浮かべることが不安であるのと、いじめの方向に寄りすぎないようにすることが大切になっていくのかと思った部分が実践上留意すべき点かなと感じた。

3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？

少し難しかった

4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

- 読み物教材の登場人物の立場や状況を子どもが想像するのが難しそうに思えたから
- 本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しかったから
- 本教材と子どもの知識・理解・経験との結びつきをつけるのが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

複数の視点から教材を読むことによって、どの部分から授業のねらいに迫っていくことが効果的かを話し合うことにつながり、とても楽しいと感じた。ただ、それぞれの授業スタイルや考え方がぶつかることもあるので、時間はかかると思う。他者と指導案を作ることで、様々な考え方やその過程に触れることができ、それがとても面白かった。特に、道徳のような思考や判断、人間性について考えていくような授業をともに構想していくことで、それぞれの思考過程が浮き彫りになったり、自分の思考の偏りや癖について反省することができたりして、これからの授業改善につながるいい機会であったと強く感じた。また、3人で話し合っている中で、教員がゆさぶりに似た疑問を投げかけてくれることで新たな視点や授業状留意した方がよさそうなものについて考えが及ぶことがあった。授業を構想しながら、自分たちが道徳の授業を受けていたような気分になった。道徳の授業について話し合うことが直接的に道徳の価値項目に迫ることにつながっていく可能性があるのではないかと思った。

【受講生C】

2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。

生命の尊さという価値項目で授業するために、この教材の主人公の気持ちを子どもたちが自身の経験に結び付けて考えることがしやすい教材であると感じた。しかし、「命が大切だから生き物は殺してはいけない」といった偏った価値観に陥りやすい教材でもあるため、生命は大切であるが、それを理解し、考えを深めたうえでどのように実生活に活かしていけるかを考えさせる必要がある教材であると感じた。上留意すべき点かなと感じた。

3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？
 少し難しかった

4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

- 本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しかったから
- 本教材と子どもの知識・理解・経験との結びつきをつけるのが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

今回の指導案作成では、3人で協力して作成したこともあり、自分自身では気が付くことのできないような視点や考え方を得ながら、発問の工夫や授業の流れを考えることができた。道徳は答えがない問いを考える教科だと良く耳にするが、今回グループで指導案を作成するにあたって、答えがないのではなく、答えがいくつもある教科なのではないかと感じた。だからこそ、授業を行う上で、何をどのように学ばせるのかということを経験は明確にし、当たり前だと思っていたことを学んだ先に、子どもたちを何を学ぶことができるのかを考えて授業を行う必要があると思った。

学習指導案の作成及び模擬授業を担当した三人に共通する点は、以下の通りである。まず、「生命の尊さを扱う際の価値項目の選定が学習指導要領や想定外の展開のために難しく感じられること」、「主人公の行動に共感を促す過程で、子ども自身の経験と結び付けることが難しいこと」があげられた。また、「いじめ等の別方向へ話題がそれる恐れがあること」や「教師の先入観が障壁になること」、「登場人物と似た経験が子どもにあるか不明であること」、「複数人で行う共同立案の難しさ」（一方、共同立案は、生命観や道徳観の違いを認識し、思考の偏りを修正する好機とも受け止められている）もあげられた。教材批判の点からみると、「生き物の命は大切」という当たり前だと思っていたことの学びの先に焦点が定められていることが注目される。授業の狙いと内容項目を明確にし、学びを考える必要があるという振り返りが行われていることは、総じて、命を扱う題材でも指導者の狙いや展開次第で学びが構築できることが確認されたことを表しているといえる。

②授業者による模擬授業の振り返り

模擬授業実施後、授業を行った学生（教師）より、Microsoft Teams を通じて以下のようなアンケート回答を得た。その質問事項及び回答内容は以下の通りである（表4参照）。

表4 授業者による模擬授業の振り返り

1. あなたの属性を選んでください
 授業者（教師）

2. 【授業者】実際に授業を行ってみて、学習指導案を作成していた時に浮かんだ悩みはどのように生かされましたか？

- 【A】それぞれの問いに意味があり、その手順を踏むことで授業が成り立つと身をもって実感できた。
- 【B】導入の部分で同じような体験を引き出すことに成功できたのと、それにより振り返りの前に自分たちにも同じような体験があったことを認識させることができた。
- 【C】発問やどのようなことを考えさせたいかを明確に整理して、授業を行うことができた。

3. 【授業者】実際に授業を行ってみて、読み物教材の掘り下げの際に難しかったところはありませんか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と書いてください。
- 【A】 平等な命の大切さを意識していたが、児童役が害があるないで判断し始めてしまったためどのような授業の進行をしていくか分からなくなってしまった。
- 【B】 主人公にそって話を読み進めたいものの、このお話の中では主人公は道徳的に正しいことをしたわけではないため、どうこのお話の中心に触れられるようにするのが難しかった。
- 【C】 「命は大切」という子どもたちの既存の価値観や「他の命を奪ってはいけない、給食なども食べない」といった偏った価値観を植え付けてしまわないようにし、なおかつ実生活に結び付けていくという点が難しかった。
4. 【授業者】実際に授業を行ってみて、子どもの発言への返答で困ったことはありましたか？※ない場合は「なし」と書いてください。
- 【A】 上記の内容だが、求めている回答とズレた回答がクラス全体として出てきた場合にどう軌道修正するのかが困った。この時に軌道修正するのが正しいのかそれともそのままの勢いでまとめていくのか分からなかった。
- 【B】 なし
- 【C】 振り返りで、「人に害があるかどうかで生き物の命を奪うかを判断する」という旨の振り返りがあり、肯定しつつも少し困ってしまった。
5. 本授業に関する全般的な感想を書いてください。
- 【A】 自分が考えていたよりも授業展開が上手くいかず、経験をもっと積んでいきたいと感じた。今回の模擬授業の反省点を見つけ、それを見直し、今後に繋げていきたいと思う。
- 【B】 ねらいを授業の始めで確認することの重要性と、子どもたちの立場に立って理解しやすいような授業展開を行うことの重要性とその難しさ、さらにはそれを3人で共有する難しさを痛感した。発問同士が切れ切れにならないよう、話に沿って発問を組み立てていくことが大切だと感じた。また、板書は子どもたちの思考が可視化される部分なので、何を考えてどのように思ったかを逐一残してあげることが大切になるのかなと感じた。今回の反省点を生かして今後の授業構想・実践につなげたいと思った。
- 【C】 めあての設定や発問の工夫、子どもたちが自身の生活に結び付けられるような教材の準備など、反省点やもっと工夫できる点がたくさんあったと思う。今回と同じような失敗を次年度の実習や教壇に立ってからしないように、今一度今回の授業を振り返り、今回の経験今後の糧にしていきたい。

模擬授業を行った三人は、道徳科の授業づくりの反省点として、「発問同士のつながり」、「子どもたちの立場に立った授業展開」、「子どもたちの思考の可視化としての板書」、「子どもたち自身の生活と結び付く教材の準備」をあげた。こうした課題の重要性は、道徳科の授業において教師側と子ども側との間で理解や認識にずれが生じることがあることが意識されることで一層際立つことになる。特に、「平等な命の大切さを意識していたが、児童役が害があるないで判断し始めてしまったためどのような授業の進行をしていくか分からなくなってしまった」という記述のように、子どもの返答の内容が、授業開始前に行われる教材研究では想定し切れない場合のあることが踏まえられていることにより、「では実際にどのように対応すべきか」という問題意識をもって授業に臨めるようになる。上述の表4では、例えば、板書の役割への気づきがその表れと位置づけられる。

③受講者（子ども役）による模擬授業に関する感想

模擬授業実施後、授業を受けた学生（子ども）より、Microsoft Teamsを通じて以下のようなアンケート回答を得た。その質問事項及び回答内容は以下の通りである（表5参照）。

表5 授業者による模擬授業の振り返り

<p>1. あなたの属性を選んでください 受講者 (子ども)</p> <p>2. 【受講者】実際に授業を受けてみて、授業者の発問で答えにくかった／考えにくかったところがありましたか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロバの行動のあとのアドルフの行動はどうでしたか？ ・ロバの行動の後のアドルフの行動について ・アドルフの行動を最初に聞いた時に、登場人物を整理していないのでアドルフが何をしたのかもう一度探さなくてはいけなかった点 ・行動を考えるのか、その行動をとった時の気持ちを考えるのかがあやふやになっている部分があり、そこは答えにくく感じた。 ・アドルフはどんな行動をとった、ロバの行動のあとのアドルフの行動 ・「アドルフはどんな行動をとっていたか」については、どの場面という指定がなかったので、行動を挙げればキリがないのではと思えにくく感じた。問1と問3は行動について考えるという時間が多く取られていたため、そのときの〇〇の気持ちは？と追加で聞かれると、そこまでは考えてないよと少し難しく感じる児童もいるのではないかと思った。 <p>3. 【受講者】実際に授業を受けてみて、教材についてもう少し掘り下げたかった（もっと考えたかった）ところがありましたか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜゴキブリは殺すのに、アドルフがカエルを殺してはいけないのか。 ・ロバのイメージ（行動、様子など） ・当然だよねとなってしまっているが、軽く見えてしまっていることも多くあるような気がするので、命が大切ということをもっと考えてみたかった。 ・アドルフは次の日からどんな人に生まれ変わったのか、もしくは生まれ変わらなかったのか ・ねらいに「アドルフの心情の変化について気づき」とあったので、アドルフの心情について考える発問をもっと多くしてもよかったのではないかと思う。行動を確認するような形だったので、あらずし確認のように思え、何を本文から学んだのかがしっくりきていない。 <p>4. 【受講者】実際に授業を受けてみて、最も頭に残ったことはどのようなことでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴキブリを殺していいと感じている自分に気づいたことが一番印象に残っています。 ・ゴキブリにも命があること ・インパクトとしてはゴキブリの話題が一番残っている。振り返りの場面で、命を大切にすることで自分としてはどうということなのだろうと考えたことが頭に残っている。 ・終末のふり返りの前のやり取り（ヒキガエルには毒がある） ・なんでゴキブリ殺すのは良くてカエルに石投げるのはダメなのかというところ <p>5. 本授業に関する全般的な感想を書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めのゴキブリの例を最後に再登場させることで、自身の「生命の扱い方」に関する認知が大きく動きました。とても有効だったのではないかと思います。アドルフたちの心の変化を視覚的に示せる板書があると、自分がどこのアドルフなのか意識できて、より効果的なのかなとも思いました。 ・ゴキブリというインパクトのある導入から始まり、聴きたくなる授業だった。しかし、展開では授業案を進めているような印象を持ってしまい、道徳心を深められたかには疑問が残った。締めでC君がうまく子どもを「ゆさぶる」ことができていたので子どもが道徳に触れられていたように思った。 ・身近なゴキブリから話をもってくるのはインパクトがあるが、話には入りにくくなってしまったのではないかと感じた。写真がずっと貼ってあることで、気になってしまう児童もいるのではないかと考えた。3人とも落ち着いた話し方で話のスピードや声の大きさもよかった。轍と

いう聞きなれない言葉などはあらすじを確認する場面などで説明が必要だったのではないかと感じた。発問が何を考えるのかあやふやな部分があったので、そこは改善が必要ではないかと感じた。

- ・生き物をむやみに殺さないようにしようとは思った。しかし、生命の尊さとまでは言えない。つまり、なぜ殺してはいけないのかに対する理由に深まりがなかったように感じる。導入でゴキブリの写真を見せられたのは嫌だったが、アドルフの行動を自分事として捉えるためには効果的だったと思う。また、ゴキブリとヒキガエルの若干の差異も終末で活きたため良かったと思う。展開の部分で価値に迫ったとは感じなかった。むしろ、まとめの部分で自分たちもゴキブリを殺すのにヒキガエルを殺すことには反対なのか聞かれたときに価値に近づいた気がした。後出しで意見するのも申し訳ないが、問1「アドルフはどんな行動をとった」、問2「ロバはなぜ新しいわだちをつけた」を省略して、問3「ロバの行動のあとのアドルフの行動」をもう少しじっくり考えた後に、ゴキブリを殺すこととヒキガエルを殺すことの違いを展開で考えると、振り返りの内容が変わったと思う。
- ・導入のインパクトはあった。ゴキブリは嫌な存在だという共通認識が果たせたと思う。しかし、ゴキブリへの対応としてスプレーの話が出たが、教師側から「ごめんなさいって思うかもしれないけどスプレーするよね」みたいな話があったが、申し訳なさという要素が教師側から出てしまうと、子どもの思考が誘導されるように思った。展開は、本文の範読はなくてよいものとして、あらすじの確認もなかったので、発問が急なものに感じた。また、子どもたちから出た考えを、子どもの言葉でうまくまとめてから次の発問に関するあらすじに移ることができれば、授業についていけなくなってしまうような子が出るリスクが減らせるのではないかなと思った。また、考えのまとめ→簡単なあらすじ→発問の流れがなかったのと、声のトーンが一定だったので、どこが発問が分かりづらかった。度々、教師の言葉で子どもの考えをまとめることがあった。終末では、「ヒキガエルには毒があるのでは」という意図していなかったであろう児童からの発言に、教師がうまく対応していた印象がある。ただ、その話で盛り上がったため（授業の時間が限られていたこともあると思う）、ふり返りが教師の求めていたものであったかは微妙なかなと思った。
- ・最初に出てきたゴキブリに対する純粋な反応と、当たり前になっている対処法を、アドルフたちのカエルに対する行動と繋げることで、自分事にすることが小学生でもできると思った。生き物は絶対殺さないとならないよう、給食で命をいただくことに触れていたのも良かったと思う。疲れているようにみえる年老いたロバに鞭を打ち続ける農夫（大人）に触れてみるのも面白いかもしれないと思った。指導案の展開の指導上の留意点に書かれていることを考えさせることができる発問があると良かったと思う。

模擬授業を受けた学生の感想に共通する点は、以下の通りである。肯定的な感想としては、「冒頭で示されたゴキブリの扱いが、学習者の意識を揺さぶり、生命観への契機となったこと」があげられる。また、「それを終末で再登場させる工夫により、自身の「生命の扱い方」への認知変容が促された」という声もあった。

一方で、課題もあげられていた。「(道徳的価値の深まりにあったか疑問であるという立場から) 展開部での発問にさらなる改善を求める声」、「ゴキブリの写真の貼り出しが一部の子どもの注意を逸らす恐れ」、「教師の言葉で思考の誘導が起こる懸念」、「本文の読解やあらすじ整理が不十分」、「発問の意図の整理と意見の収束に関する課題」、「命の尊さについての突き詰め不足」、「(教師が意見を受け止め、突発的な発言に対応できていた点は評価できるが) 授業の流れの適切な管理」が指摘された。

これらをまとめると、導入のインパクトや子どもへの揺さぶりは肯定的に受け止められたものの、

道徳的価値や授業構成の点で課題が認められたことが確認できる。中でも、道徳科の授業づくりで生かせそうな点として、読み物教材の内容と子どもとの結びつきがあげられる。これまでに行われた授業実践例では、そのような結びつきを生むものとして、子どもの経験を引き出すことが注目されるが多かったといえる。

「ヒキガエルとロバ」の場合、「子ども自身に生き物を飼ったことがあるか」についてたずねる流れを構想することが予想されるが、本模擬授業では、事前に行われた学習指導案づくりの過程において、その方向とは異なる道が選ばれることになった。

そもそも、「生き物を飼ったことがある」という経験の振り返りがもたらす効果は、「生き物を大切にする」という思いの創出にあるといえる。

だが、考えてみれば、読み物教材の「ヒキガエルとロバ」において、登場人物のアドルフたちは「生き物を大切にしていない」のである。ロバにはあまり触れずに、アドルフを取り上げる本模擬授業のような場合には、はじめに、子どもたちがもつ「生き物を大切にする」思いを想起させたとしても、アドルフの心情に結びつくわけではないという判断がなされたわけである。

このことからいえることは、道徳科の授業づくり・授業実践において活用される資料や発問は、あくまでも教材の注目点に基づいて決まるということである。先行研究において用いられている手立ての如何にかかわらず、自らが想定する授業展開との整合性がつけられることこそ重要なのである。それは、「生命の尊さ」について学ぶ授業において、その逆の「生命の尊さをないがしろにしている経験の想起」を必要とみなした授業者の判断から生まれたものである。それも広くみれば、教材を批判的に検討した結果であると言って間違いではないだろう。授業実践後の振り返りを通じて浮かび上がった認識の変容とは別に、教材と子どもの双方に真摯に向き合った結果は次の授業につながるものといえる。

おわりに

以上の考察を通じて、教材を批判的に検討することの重要性が改めて認識された。それは、文字通り、本時の授業で取り上げる読み物教材に関する内容の検討に限られるものではなく、授業構想時に参照する先行研究も含まれる。目の前の子どもたちが道徳的価値について理解・思考するために最も必要なことを考えることこそ教材批判の真髄である。今後も、教材と子どもに即した道徳科の授業づくりのポイントを探っていきたい。

謝辞

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B（課題番号 23H00993, 研究代表者：打越正貴）の助成を受けて行われた。

注

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」, 16.
- 2) あるいは、登場人物が決断を迫られるような場面が描かれた上で、その最終的な決断が明示されないオープンエンド型の教材もある。
- 3) 例えば、原語が critical thinking である取り組みを「批判的思考」ではなく「クリティカル・シンキング」というようにカタカナ表記をする向きがあるのは、その表れといえる。
- 4) 『わたしたちの道徳』の刊行は、「教育再生実行会議」の提言を受けて設置された「道徳教育の充実に関する懇談会」における議論がベースになっている。およそ 1 年間にわたって行われた議論の内、「道徳を新たな枠組みで「特別の教科 道徳」として教科化する方策」「教員の道徳教育に関する指導力向上」「指導方法の開発・普及や教材の充実」が提言としてまとめられた。同懇談会において、日本の道徳教育の現状や社会状況を踏まえ、道徳教育の充実が重要課題であると認識しつつ、これまでの成果と課題が検証されたことにより、「心のノート」の全面改訂、教員指導力向上策、新たな枠組みに基づく教科化の具体的方策など、幅広い議論が進められた。『わたしたちの道徳』は、それを元に、「心のノート」をより授業で活用しやすく改善する検討の下、平成 26 年度から配布される改訂版として刊行されるに至った。
- 5) 文部科学省『わたしたちの道徳 三・四年』, 96-99.
- 6) 長谷徹（編著）『『わたしたちの道徳』完全活用ガイドブック』（明治図書, 2015）, 76.
- 7) 横山利弘（監修）／牧崎幸夫・広岡義之・杉中康平（編）『楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる』（ミネルヴァ書房, 2015）, 85.
- 8) 本稿では主として取り上げられなかった「家族や社会との関わりの中での生命」については、家族の中で受け継がれる命の連続性や社会的な支えによって生まれているという視点から、人間同士のつながりの中で生命を考える大切さを学ぶこと／いのちが単独で存在するのではなく、多くの人との相互作用・支えの中で生まれることを認識することが期待される。「生死や生き方に関わる生命の尊厳」については、命には必ず始まりと終わりがあり、その有限性や尊厳を理解することが、生きることへの真摯な態度を育むことが期待される。これは、小学校高学年あるいは中学生において、終末期医療や自殺予防など、生命倫理の問題を学ぶ上で基礎となる概念といえる。